

【選択:発達障害児の見え方、聞こえ方、考え方、対人関係の特徴

ー集団活動を通して学ぶプログラムー】

■開講日程

- ◇事前学習期間 2020年10月30日(金)～11月15日(日)
- ◆双方向型ライブ配信日時 2020年11月23日(月・祝)13時～16時
- ◇修了試験 2020年11月23日(月・祝)16時～

■担当講師 安藤 正紀 (大学院教育学研究科 教授)

■主な受講対象者 小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭

■講習の概要

教室の中で指導や関わりの難しい子どもたち、特に発達障害と呼ばれている子どもたちの視覚、聴覚、情報処理の特性やコミュニケーションのとり方の特徴を最新の認知心理学の所見から説明します。

また、あまり注目されない、発達障害児のぎこちなさについても知見を紹介します。具体的な対応については、学校心理学における一次的援助サービスの多くの具体例を理論と併せて紹介すると同時に、運動を中心とした集団活動プログラムを実際に体験しながら、その子どもたちの理解と具体的な指導方法について深めたいと思います。

今回のハイブリット型講習では、運動を中心とした集団活動プログラムは保育園での実践を画像でご覧いただきます。

■到達目標

いわゆる発達障害児の障害特性(知覚・運動・社会性)を理解し、観察の視点や指導方法を理解することによって、学級全体の指導に役立てることができる。

■講習内容

◇事前学習(2時間:課題含む)

1. PPT 配信・内容

「発達障がい児の見え方、聞こえ方」:感覚器からの情報の入力から出力について説明し、特に聴覚と視覚情報の特徴について考え、同時処理と継次処理について知る。

「発達障がい児への理解」:発達の「遅れ・偏り・歪み」について説明し、それぞれの対応の違いを理解する。適応行動の重要性を理解し、ソーシャルスキルトレーニングの意味を理解する。

◆双方向型ライブ配信(3時間)

1. グローバル化とインクルーシブ教育について考え、通常の教室の中の指導の難しい子どもたちの認知・運動・社会性の特性と、それに対応したソーシャルスキルトレーニングの理論を学びます。
2. 保育園での実践映像を見て、理論と実践を往還させます。

【教科書】「グローバル化とインクルーシブ教育ー通常学級に在籍する発達障害児にも対応した学校・学級経営ー」安藤正紀編著(北大路書房)

■参考文献

- ・『親子バトル解決ハンドブック』編者:安藤壽子、安藤正紀 編著(図書文化社)
- ・『MEPA-R 活用事例集-保育・療育・特別支援教育に生かすムーブメント教育・療法-』

編者：是枝 喜代治、飯村 敦子、阿部 美穂子、安藤 正紀（株式会社日本文化科学社）